

Costume and Textile

No.18

服飾文化学会会報

2009年11月



夏期セミナー、石川県輪島漆芸美術館前にて

2009（平成21）年度 第10回総会・大会の報告

服飾文化学会第10回総会・大会は、当初2009年5月23・24日を予定していたが、新型インフルエンザの影響から延期となり、2009年9月19日（土）・20日（日）に、奈良女子大学生活環境学部D棟119・120室を会場として開催された。新たに「シルバーウィーク」と称されるようになった秋の連休と重なったために、発表者数や参加者数が心配されたが、研究発表総数は30件、参加者は73名に達した。また、正倉院事務所の田中陽子氏による特別講演への関心も高く、再度の交渉で承諾を得、十周年にふさわしい充実した内容となった。

1）口頭発表

はじめに奈良女子大学佐久間春夫副学長より歓迎の挨拶、伊藤紀之会長より大会の挨拶が行われた。その後8件の研究発表、二日目にも8件、合計16件の研究発表が行われた。日本・西洋・中国など広範囲の地域の服飾・染織史、装束の発生や成立など踏み込んだ内容の研究結果が発表された。いずれもパワーポイントを用いて実物資料、画像、図表等がわかりやすく提示され、質疑応答も活発に行われた。



口頭発表会場

2) ポスター発表

ポスター発表は4件であった。正倉院や平安貴族の装束に関連したもの、2009年度から始まった裁判員制度や民族的な織物についての発表が行われた。



ポスター発表会場

3) 作品展示発表

作品展示は10件であった。タペストリー、刺繍、タッチングレース、キルト、各種ドレス、アート・トゥ・ウェア等の作品は、素材・デザイン・技術等に研究と創造性をつぎ込んだものである。制作者から創作・研究のポイントについてのスピーチがあり、短時間であったが質疑応答が活発に行われた。



展示発表会場

4) 特別講演

まず小笠原小枝副会長による講師・田中陽子氏の紹介から始まった。小笠原氏は田中氏の恩師にあたることから、学生時代のことや最近の田中氏の著書について紹介された。

*『日本の美術No.520正倉院の舞楽装束』

(田中陽子著、至文堂編、ぎょうせい発行)

田中氏は正倉院に勤務して10年余りになる中堅の研究者である。正倉院の舞楽装束の中から袍・半臂・衫等の素材・染色・縫製等について、年紀や国印、銘文、『延喜式』、『正倉院文書』などを丹念に調べたものを紹介された。そして関連する服飾資料にはわかりやすいものを選び、拡大提示しながら丁寧に話された。後で復元染色の色の決定や、縫製に関する質問にも応えられ、講演内容が一層深まるものとなった。



特別講演講師、田中陽子氏

5) 第10回総会

委任状と参加会員数により総会の成立を確認した後、岩崎雅美大会実行委員長の司会で開始した。最初に伊藤会長の挨拶が行われた。次に豊田幸子氏を議長に選出し、平成21(2009)年度総会の議事が進められた。平成20年度事業報告、同決算報告、監査報告が行われ、全てを拍手で承認した。続いて平成21年度の事業計画案、予算案が提案され、提案通り承認された。なお、本年度は役員改選と会員名簿の発行が予定されている。

6) 懇親会

50名の参加者に講師の田中陽子氏を交えて和風ダイニング「花小路」で懇親会が開催された。清水久美子氏の司会で、まず学会発足十周年をお祝

いして奈良女子大学の紅白のワインで乾杯した。蔵方宏昌副会長による免疫力を高める風邪対策の話は、とても有意義であった。その後新入会員の紹介、田中陽子氏のエピソード、石井とめ子氏の元気さの秘密などをお聞きしながら、終始和やかな雰囲気ですてきな懇親会が行われた。本大会では若い会員の参加が目立ったことが特に嬉しいことであった。

7) 見学会

二日目の昼食後、奈良女子大学構内に遺る歴史的建造物を自由に見学した。「守衛室と記念館」(重文)、「佐保会館」(国の登録有形文化財)、「奉安殿」等。

全ての発表が終了した午後2時15分に大型バスで春日大社に向かったところ、奈良公園は連休で大勢の人出となって道路は大渋滞、10分のところが45分もかかって社務所に到着した。そのために春日大社の岡本権宮司の説明も簡略で、本殿の参拝をかうじてすませて先に駅に向かう会員も出た。宝物殿では松村学芸員の解説があり、国宝・重文の古神宝の刀剣、甲冑類を見学した。



春日大社にて、岡本権宮司の説明

8) 御礼

学会が延期したことにより、都合で参加ができなくなった3名の会員から多額のご寄付を頂きました。お蔭様でたいへん役立ちました。心より御礼を申し上げます。最後になりますが、会長はじめ、多くの会員の皆様からもねぎらいのお言葉を頂き、誠に有難うございました。

(実行委員長 岩崎雅美)

《2009年度 総会・大会プログラム》

9月19日(土)

13:30 開催校挨拶 奈良女子大学副学長 佐久間春夫
開会の挨拶 学会長 伊藤紀之

【口頭発表】13:35-15:35

◆座長 徳井淑子(お茶の水女子大学)

A-1 17世紀フランスにおけるリネン類(linge)
—奢侈禁止令との関わりから—

内村里奈(跡見学園女子大学非常勤)

A-2 18世紀フランスにおけるマリー・サレの舞台衣裳改革
林 精子(青山学院大学非常勤)

◆座長 常見美紀子(京都女子大学)

A-3 雑誌「少女の友」に描かれた少女スタイル
～『女学生服装帖』からの一考察～

永田麻里子(共立女子短期大学)

A-4 リバティー商会のカタログにおけるケイト・グリーン
ウェイ・スタイル

長谷川 希(東京家政大学大学院)

A-5 クラヴァットからみたダンディの精神性
～19世紀初頭を中心に～

高橋直巳(名古屋大学大学院)

◆座長 馬場まみ(華頂短期大学)

A-6 田安德川家伝来、肉筆小袖雛形の調査報告
水上嘉代子(財団法人遠山記念館)

A-7 ファッションリーダーとしての若衆に関する研究
—版本を中心に—

下谷 萌(共立女子大学大学院)

A-8 『琉球人座楽・道楽之図』に見る服飾
須藤良子(日本女子大学大学院)

【特別講演】15:50-17:10

田中陽子氏(宮内庁正倉院事務所)

「正倉院の舞楽装束が作られるまで」

【ポスター発表】17:20-17:40

◆座長 豊田幸子(元名古屋女子大学)

B-1 装束の装飾加工法に関する一考察
—板引による打衣の復元制作を通して—

清水久美子(同志社女子大学)

B-2 正倉院の夾纈の類型と特徴

李 政垠(イ・ジョンウン)

(東京芸術大学)

B-3 装いと裁判員制度

—法廷における被告人の印象管理と装いと関連—

杉田洋子(元國學院大學栃木短期大学)

B-4 チャンカイの経浮紋織の文様、組織とその再現
齋藤昌子(共立女子大学)

幅 晴江(織物研究者)

【総 会】17:50-18:20

【懇 親 会】19:00-20:30 和風ダイニング「花小路」

9月20日(日)

【口頭発表】9:45-11:45

◆座長 山名邦和(京都女子大学非常勤)

A-9 現代における伝統的装束について

—祭祀舞装束を例に—

嵯崎久美子(広島女学院大学)

A-10 長沙馬王堆一号漢墓出土の長衣の名称に関する一考察
水野夏子 (大阪城南女子短期大学非常勤)

◆座長 長崎 巖 (共立女子大学)

A-11 江戸時代後期における能装束小袖物の形状に関する考察
一年紀の明確な作品を中心にー

田中淑江 (日本女子大学大学院)

A-12 小袖模様みる鶴の表現

岡松 恵 (奈良女子大学大学院博士研究員)

A-13 昭和恐慌下のきものファッション事情

ー素材白生地・縮緬の需要拡大を中心にー

北野裕子 (大阪樟蔭女子大学非常勤)

◆座長 小笠原小枝 (日本女子大学)

A-14 江戸時代における舶載染織品「毛氈」の受容について
平田素子 (長崎玉成短期大学)

A-15 陣羽織の発生と成立に関する一考察

西井智美 (共立女子大学)

A-16 鎌倉円覚寺の「開山筆筭収納品の組紐」について
その用と美の考察

鈴木美登里

【作品展示発表】13:00-13:50

◆座長 泉山幸代 (北翔大学短期大学部)

C-1 織物作品の抜染法による柄の検討 (Ⅱ)

ータペストリー制作ー

池田節子 (相模女子大学短期大学部)

C-2 スラッシュキルト 2題

田中百子 (相模女子大学短期大学部)

○角田千枝 (相模女子大学短期大学部非常勤)

C-3 伝統柄からのデザイン第3報 お召縮緬

変わり立縮にフィルム柄

内藤千文 (大阪女子短期大学)

C-4 「光と影」ー綿の輝きに魅せられてー

伊藤陽子 (岐阜市立女子短期大学)

C-5 繊維と金属線の融合Ⅱ

佐久間恭子 (女子美術大学)

◆座長 梶岡充子 (園田学園女子短期大学部)

C-6 一枚の布からー装飾の可能性ー

大網美代子 (大妻女子大学)

C-7 幾何学形体をデザインソースとした服飾造形の試み
円形

藤本純子 (神戸ファッション造形大学)

C-8 服飾デザインにおける浜ちりめんの適応性

ー幾何学柄の効果性2ー

森下あおい (滋賀県立大学)

中川涼子 (クリエーションA・R)

C-9 SpringⅢ

ータッチングレースで装飾した夏物帽子とバッグ

水谷みつ江 (文化女子大学)

C-10 桃山時代の意匠を現代の生活にⅡ

佐久間敏子 (和洋女子大学非常勤)

【見学会】14:00-16:00

春日大社本殿 (国宝) 神職による解説

春日大社宝物殿

2009年度 第10回夏期セミナーの報告

8月5日 (水)

「石川県輪島漆芸美術館」に集まり、午後2時から学芸係長の細川喜久美氏の講演を聞いた。

平成16年能登半島の大地震で、総持寺周辺の旧家の土蔵が崩壊し、輪島塗の漆器は多くが廃棄されたが、一部残った明治・大正期の輪島塗漆器が新品同様の光沢を持っていた。大地震は多くの貴重品を失わせた反面、輪島塗の良さを証明することにもなったという。輪島塗漆器は、17世紀以降堅牢な下地の技術が確立し、18世紀から量産されて日本各地に広まった。輪島塗はもともと無地だったが、18世紀前半、享保年間に「沈金」が始まり、「蒔絵」が19世紀前半、文政期に導入され、今日に至っているという。

講演を聞いた後、企画展「漆芸の巨匠たち」を作品ごとに解説してもらい、松田権六・六角紫水ら現代の名工が作った国宝級の漆器を鑑賞した。併展している「輪島塗の歩み」では、江戸時代から現代までの輪島塗漆器が展示され、「アジアの漆芸」では、朝鮮季朝時代、中国四川省、ベトナム、タイ、ミャンマー、ブータン各地の19世紀から20世紀にかけての品物が陳列されていた。

漆芸美術館に近い「輪島漆芸技術研修所」は、夏休みで授業の様子は見られなかったが、学生の作品を見る事が出来るとの事で、興味ある人が自由に見学した。

夜の懇親会は郷土料理店「のと吉」で新鮮な魚介料理を味わいながら歓談し、2時間余りを過ごした。



石川県輪島漆芸美術館、細川氏講演



箔打実演見学、松村製箔所

8月6日(木)

朝食後、自由に輪島名物「朝市」を見学してからバスで総持寺門前町を通過、日本海海岸を見ながら一路金沢へ。途中、松本清張の小説の舞台になった能登金剛殿門で一休みして奇岩を見学した。金沢に入り、ドライブイン「コンゴ一金沢」で加賀車麩卵とじ鍋と蓮根うどんを食べ「箔団地」に向かった。

金箔の職人を集めた「箔団地」内にある「石川県箔商工業協同組合会議所」で金沢学院大学・山崎達文教授から金沢の金箔事情について講演があった。

金箔には金94.43%、銀4.90%、銅0.66%の合金が使われ、純金は柔らかく粘りが強すぎて打ち延ばしにくい。金合金のかたまりを1/1000mmの厚さに延ばしたものを「澄(ずみ)」といい、箔打師がさらに延ばし金箔にする。箔打に使う紙「下地紙」は良質の雁皮紙で、箔打師は紙探しに7~8割の日数を使っているという。しかし、最近は手間の割に需要が少ない「下地紙」を作る紙漉き職人が少なくなった事と、ベトナムと中国から安い「下地紙」が入ってきたので、日本の下地紙製造が圧迫されているという。

講演後、会議所近くの「松村製箔所」で箔打の実演を見せてもらった。住居兼用の作業所では、箔打の機械が動いていた。昔は木槌で叩いていたという。手を休めて松村社長が話をしてくれた。

1か月の半分は「下地紙」の仕込みに費やし、1日かけて1パック1800枚の「澄」を紙に挟む。袋革に包んだ後、1回平均15分を1日5回打つ。

これを1週間続けると、1/10000mmまで延び、いろいろな工芸品に用いるという。

箔打を見学してから「金沢卯辰山工芸工房」に行き、陶芸・漆芸・染・金工・ガラスの各工房で研修生の実習を見、作品を鑑賞した。その後、畳の部屋で特別に展示していただいた「花岡コレクション」の染織品30点程を見せてもらった。花岡慎一氏が捨てられていた金沢周辺の染織品を苦労して集めた事や子供の祝い着、花嫁のれんなど、花岡コレクションの整理に関係した池田和子氏の詳細な解説に耳を傾け、熱心な質疑応答があった。



金沢卯辰山工芸工房「花岡コレクション」池田氏解説

8月7日(金)

朝食後、バスで「毎田染画工芸」の工房に行き加賀友禅の手描きをしている様子を間近に見せてもらった。加賀友禅作家で、金沢工芸大学教授だった毎田健治氏のユーモアに富んだ解説を聞きながら写真を撮らせていただいた。

下絵描きから地染・水洗まで一人で行っているのは、ここだけという。また金沢で三代続いているのは毎田氏だけであり、京都でも友禅作家が三代続いている家はなくなったという。伝統工芸の継承の難しさを改めて知らされた。

予定よりも30分長く見学した後、「石川県立美術館」で学芸主査の寺川和子氏の解説で、染色品コーナーを案内していただいた。友禅掛幅や加賀前田家ゆかりの衣類など、食入のように見えていた。

昼は兼六園近くの加賀料理店「兼見御亭」で名物の治部煮や甘えびなどを食べていると、大雨の天気となった。予定のある人を除いて、自由時間

を変更。バスで「成巽閣」に行き、「前田家伝来夏衣装と調度展」を見学した。文久3年(1863)加賀藩十三代藩主 前田斉泰が母、真龍院の隠居所として建てた贅を尽くした佇まいであるが、雨戸を閉めて見る部屋は落ち着いて趣があった。一通り見学した後、「つくしの縁」で雨の庭を眺め、日頃味わうことのない雰囲気、時間の許す限り浸っていた。

なお、今回は、会員24名、非会員2名、大学院生1名の27名が参加した。
 <今回の夏季セミナー開催には日本女子大学小笠原小枝先生にご協力いただきました。>

(夏期セミナー担当 蔵方宏昌)

夏期セミナー日程

8月5日(水)

- 13:30 受付 石川県輪島漆芸美術館
- 14:00 開会、オリエンテーション
講演;細川喜久美氏
(石川県輪島漆芸美術館学芸係長)
- 15:00 石川県輪島漆芸美術館 見学
輪島漆芸技術研修所 自由見学
稲忠漆芸会館 自由見学
「ホテルルートイン輪島」へ移動
- 18:00懇親会「郷土料理のと吉」

8月6日(木)

- 9:45 貸し切りバスにて金沢へ
- 11:45 昼食「コンゴ一金沢」
- 13:00 金沢「箔団地」訪問
石川県箔商工業協同組合会議所
講演;山崎達文氏
(金沢学院大学教授)
- 15:30 金沢卯辰山工芸工房 訪問
工房と花岡コレクションの見学
解説;池田和子氏
(卯辰山工芸工房学芸員)
- 17:30 「ガーデンホテル」夕食自由、自由行動

8月7日(金)

- 9:00 毎田染画工芸 見学
(加賀友禅作家 毎田健治氏工房)
- 10:45 石川県立美術館 見学
解説;寺川和子氏
(石川県立美術館学芸員)
- 12:15 昼食「兼見御亭」 出発まで自由行動
- 14:45 兼六園 出発
- 15:20 JR金沢駅
- 16:30 小松空港

*****お知らせ*****

■2010・2011(平成22・23)年度 役員選挙

実施日程:2009年12月中旬頃

方 法:郵送による投票

※選挙に関する内規に従い、2008年度末現在の正会員が選挙権を行使します。

■2009(平成21)年度 論文発表会

開催日:2010年3月6日(土)

会 場:東京家政大学

東京都板橋区加賀1-18-1

■2010(平成22)年度 第11回総会・大会

開催日:2010年5月22日(土)23日(日)

会 場:日本女子大学

東京都文京区目白台2-8-1

■会員名簿の発行

ご協力をお願い致します。

■「服飾文化学会誌研究論文投稿規定」および「執筆要領」の変更

2009年9月19日開催の理事会において、「服飾文化学会誌研究論文投稿規定」および「執筆要領」の変更が、下記のように決定されました。

◎服飾文化学会誌研究論文投稿規定の追加

「投稿の手続き」に、「5) 投稿〆切は、3月末と8月末の年2回とする。」の文面を追加する。

◎執筆要領の変更

現状を、「執筆の形式 1) 和文投稿は原則として、ワードプロセッサにより作成する。形式はA4判用紙(縦置き)で横書きとし、上2cm, 下2cm, 左2cm, 右6cm以上あけ、文字サイズは10.5ポイントとし、24字44行を1頁とする。」に変更する。

◎「本執筆要項の発効」

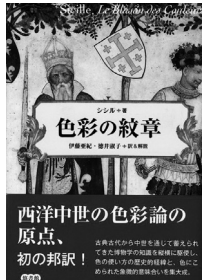
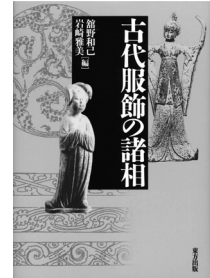
現状を、「本執筆要項は、2009年9月19日以降に受付ける研究論文から施行する。なお、本要項の改正は、理事会の議を経て編集委員会が行う。」に変更する。

次号より、学会誌研究論文投稿カードの連絡先欄にe-mailアドレス記入欄を設けます。記入に御協力下さい。

会員の近著紹介

舘野和己・岩崎雅美編『古代服飾の諸相』東方出版、2009年4月 A5判・358頁

平成16(2004)年度に奈良女子大学が21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の採択を受けて以来、古代服飾分野では様々な研究会やシンポジウムを開催した。本書はその4年間の研究成果を集約したものである。日本の奈良時代を焦点として、大陸や半島との交流の中で人々はどのような衣服を身につけたのか。執筆者の水野夏子、馬場まみ、黄貞允、岩崎雅美、檜崎久美子、飯島礼子、岡松恵らは、神仏像、墳墓の壁画、正倉院御物、万葉歌などを手がかりに服飾の形や文様と意味を考究し、その研究発表を基に、服飾、歴史、地理、民俗、文学などの研究者を交えた議論の中で幾つかの成果を見出した。内容は、第一章 古代日本とその周辺、第二章 奈良時代の服飾文化、第三章 甦る奈良時代の服飾にまとめている。(岩崎雅美)



シシル『色彩の紋章』伊藤亜紀・徳井淑子訳・解説 悠書館 2009年5月

本書は1528年にリヨンで刊行された『色彩の紋章』Blason des Couleursの全訳である。ホイジンガの『中世の秋』に引用され、古くから知られた著作だが、1998年、エリザベス・ネルソンがブラウン大学に提出した博士論文によって、作者シシルの人物像や後世の加筆・出版の経緯、また典拠となった古代以来の博物誌や百科全書などの全貌が明らかになった。作品は、紋章の基本色である七色の意味を解説し、紋章指南書としての性格の強い第一部と、多彩な中間色に関心を向け、より生活に密着した色彩感情を伝える第二部とから成る。

著者シシルSicilleは、15世紀前半にアラゴン王アルフォンソ五世に仕えた紋章官である。第一部の執筆者であるが、その内容には無名の作者による大幅な加筆があり、また第二部も15世紀末から16世紀初頭に追加されたという複雑な経緯がある。第一部が伝統的でフォーマルな色彩のシンボリズムを展開しているのに対し、第二部は服飾や織物の色に関わる記述も多く、15～16世紀の服飾史史料として読み直される価値がある。(徳井淑子)

濱田雅子著『アメリカ服飾社会史』東京堂出版、2009年

本書では、アメリカの初期移民社会の服飾のヨーロッパファッションからアメリカンファッションへの変容過程、さらに20世紀におけるパリモードからアメリカンモードへの転換について追ってみた。また、『アメリカ服飾社会史』という書名が文字通り示しているように、本書の目標は、服飾と社会史の相関関係を意識しながら「アメリカの民衆の衣生活を社会史として描き出す」ことにあった。アメリカのアフリカ系アメリカ人大統領が誕生した今日、わが国における上流階級を中心とする服飾史研究や服飾史教育の現状は、当然のことながら、見直されなければならない。

本書には、今後の研究課題が沢山盛り込まれている。筆者は、本書刊行後「アメリカ服飾社会史研究会」の設立に着手した。本研究会を足場にして、若手研究者の皆さんと手を携えて、本分野の研究のさらなる進化・発展に貢献できることを願っている。ご関心のおありの方は、Web サイト、<http://american-mode.com>をご参照いただければ幸いである。(濱田雅子)



服飾文化学会 会報 No.18 (2009.11)

◆会計報告

服飾文化学会 2008年度収支決算書 (2008.4.1～2009.3.31) 単位：円

項 目	予 算	決 算	予算との比較(△減)	備 考
収入				
(1)年会費	1,134,000	1,303,000	169,000	H21 6000×2 3000×3 H20 6000×176 7000×1 3000×21 H19 6000×16 3000×2 H18 6000×5 H17 6000×2 3000×1 H16 6000×1 3000×1 H20 1000×14 500×9 H21 1000×1 500×3 Vol.9、3000×9 Vol.10、3000×2 (審査通信費を含む) Vol.1、3000×7 (審査通信費を含む) 学会誌バックナンバー販売 20,000 利子3,395
(2)入会費	15,000	21,000	6,000	
(3)年間購読料	30,000	47,475	17,475	
(4)学会誌論文編掲載料	500,000	617,000	117,000	
(5)学会誌作品編掲載料	300,000	338,000	38,000	
その他	0	23,395	23,395	
繰越金	1,149,436	1,149,436		
計	3,128,436	3,499,306	370,870	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌論文編発行費	600,000	734,429	134,429	
3)学会誌作品編発行費	400,000	549,117	149,117	
4)通信費	90,000	101,270	11,270	
5)会報発行費	140,000	111,555	△28,445	会報No.16、17
6)事務用品費	70,000	38,821	△31,179	
7)会議費	50,000	42,264	△7,736	
8)交通費	20,000	2,560	△17,440	
9)雑費	10,000	11,100	1,100	
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	4,835	△46,165	研究例会
2)事業費B	100,000	98,949	△1,051	論文発表会
(3)広報費	20,000	0	△20,000	
(4)予備費	1,478,436	62,100	△1,418,336	慶弔費、事務管理経費
小 計	3,128,436	1,857,000	△1,271,436	
(5)次年度繰越金		1,642,306		
計	3,128,436	3,499,306		

服飾文化学会 2008年度特別会計収支報告書 単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高	備 考
前年度繰越金			1,127,620	
大会余剰金	104,692			開催校助成金10万含む
夏期セミナー余剰金	128,891			
ホームページ作成費		111,651	1,249,552	

服飾文化学会 2009年度収支予算 (2009.4.1～2010.3.31) 単位：円

項 目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備 考
収入				
(1)年会費	1,275,000	1,134,000	141,000	
(2)入会費	19,000	15,000	4,000	
(3)年間購読料	30,000	30,000	0	
(4)学会誌論文編掲載料	520,000	500,000	20,000	
(5)学会誌作品編掲載料	300,000	300,000	0	
その他	0	0	0	
繰越金	1,642,306	1,149,436	492,870	
計	3,786,306	3,128,436		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌論文編発行費	700,000	600,000	100,000	
3)学会誌作品編発行費	550,000	400,000	150,000	
4)事務管理経費	120,000		120,000	新規項目
5)通信費	100,000	90,000	10,000	
6)会報発行費	120,000	140,000	△20,000	
7)事務用品費	60,000	70,000	△10,000	
8)会議費	50,000	50,000	0	
9)交通費	10,000	20,000	△10,000	
10)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	50,000	0	研究例会
2)事業費B	100,000	100,000	0	論文発表会
(3)広報費	20,000	20,000	0	
小 計	1,990,000	1,650,000		
(4)予備費	1,796,306	1,478,436		選挙費用含む
計	3,786,306	3,128,436		

★入会者 (2009年4月～) ※敬称略・五十音順

正会員

木 村 秀 子	東北女子短期大学
笹 井 美保子	東京都
笹 崎 綾 野	神戸松蔭女子学院大学
佐 藤 秋 成	城西国際大学
杉 野 公 子	杉野服飾大学
中 川 涼 子	クリエイションA・R主宰
	滋賀県立大学非常勤講師
幅 晴 江	東京都
藤 井 裕 子	東京家政大学博物館
水 谷 みつ江	文化女子大学
山 本 豊	愛知学泉短期大学

学生会員

赤 羽 ひかる	共立女子大学大学院
安 達 江 梨	東北芸術工科大学大学院
伊 藤 渚	総合研究大学院大学
上 岡 学 正	大阪芸術大学大学院
下 谷 萌	共立女子大学大学院
鈴 木 理 子	共立女子大学大学院
高 橋 直 巳	名古屋大学大学院
崔 瑄 文	文化女子大学大学院
長谷川 希	東京家政大学大学院
白 成 美	文化女子大学大学院

★退会者 (2008年度末)

石 井 美 恵	田 原 美津子
市 嶋 鮎 子	花 房 美 紀
杉 山 泰 子	渡 邊 芳 道
高 橋 雅 夫	和 田 淑 子

※会則第16条(2)に従い、下記の方の会員資格を停止します

相 場 千 枝	永 田 志津子
我 妻 美奈子	永 友 理愛子
乾 淑 子	藩 琦
岡 田 治 樹	松 山 直 子
菅 野 絢 子	森 下 則 子
柳 原 あゆみ	横 山 順 子

会 報 No.18：2009(平成21)年11月発行

編集発行人：服飾文化学会

事務局：101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

共立女子大学 被服意匠研究室

TEL,FAX;03-3237-2496

E-mail;isho@s1.kyoritsu-wu.ac.jp

URL;http://www.fukushoku-bunka-gakkai.jp